

海外の事業基盤強化

開発要員増強 ニーズに即応

2011年の東日本大震災、タイ洪水に続き、12年も中国での需要低迷と日中間係悪化による車の販売不振という大きな試練に見舞われた自動車部品業界。国内でのエコカー補助金終了による反動減や欧州市場の低迷など先行き不安材料は多く、「しばらくは厳しい経営環境が続く」（藤森文雄、アイシン精機社長）。そうした中でも各社は次の成長に向けた取り組みを着実に進めている。

拠点新設、供給力確保

今後、日本国内では自動車生産台数の大きな伸びを期待しにくい。部品メーカーが中・長期の成長に向けた原動力を求める先が、新興国を中心とした海外だ。大手だけでなく、中堅・中小企業を含めて海外で生産や開発の基盤強化を急ぐ。

「開発拠点の身を充実させ、営業と技術が一体となって拡販を進める」。新興国での取り組みについて加藤宣明デンソー社長はこう語る。同社は15年度までの中期経営計画期間中、海外にある技術開発拠点のエンジニアを現在比約2倍となる4800人に増やす。テクニカルセンターをブラジルで開設。さらに13年には中国・上海市のテクニカルセンターを移転・拡張して人員を2倍以上に増やす。現地の気候に合ったカーエアコンなど世界各地の現地ニーズに沿った製品を迅速に開発できる体制を築いて競争力を強化する。

トヨタ自動車などが存在を示す東南アジア。部品メーカーが生産基盤を拡充する動きは一層、活発になっている。東海理化はインドネシアに2工場を新設し、いずれも13年に稼働する。タンゲンラン県では賃借で工場を確保してシートベルトの生産を始める。プカシ県ではスイッチ類やキーセットなどの工場を建設する。同県にある既存の小規模生産拠点の機能を新設工場に集約して供給体制を強化する。東海ゴム工業も同じくインドネシア・プカシ県に自動車用ホースの新工場を建設し、13年秋の稼働を目指す。現在は同県にある賃借工場で2輪車用ホースを生産している。新工場では4輪車用ホースも生産し、現地ニーズを取り込む。中央精機（愛知県安城市）もインドネシア・カラワン県に年産能力50万個のアルミホイール工場を建設し、14年1月に稼働することにした。

現地調達拡大し競争力向上

長引く円高は部品メーカーの収益の足を引っ張っている。各社は海外で現地調達する範囲を中核部品や素材、金型、設備などにも広げ、コスト競争力を一層強化する。アイシン・エイ・ダブ

リユは13年に稼働する中国・蘇州市の自動変速機（AT）新工場の現地調達率を70%に設定した。

同社の海外工場でも最も高水準となる。ATはギアなど高精度な部品が多く、海外調達を進めにくかった。だが新工場では量販車に搭載される前輪駆動車用4速ATを生産するため、現地調達率の向上により原価を低減する。

シロキ工業と今仙電機製作所は、それぞれ主力のシート部品の中核構成部品の現地調達を進める。その代表例が背もたれ角度を調整するリクライナーの構成部品であるラウンドリクライナー。精密プレスなど高度な技術が必要な上、自動ラインでの集中生産によるメリットもあって、これまですべて日本国内で生産し、海外工場に供給していた。だが、円高が続く中、現地調達に切り替えないと判断した。

シロキ工業は8月に国内で量産を始めた新タイプについて、今後、米国で受注した分については米国工場での生産に切り替える。タイ工場が13年

稼働予定のインドネシアの工場でも現地調達の準備を進め、日本、米国、東南アジア諸国連合（ASEAN）の3拠点で調達可能な体制を築く。

部品部材の現地調達に乗り出すのは大豊工業。今仙電機製作所は11年に米国工場での現地生産を始めた。今後はアジアでの生産も検討している。

部品の現地調達に乗り出すのは大豊工業。今仙電機製作所は11年に米国工場での現地生産を始めた。今後はアジアでの生産も検討している。

部品の現地調達に乗り出すのは大豊工業。今仙電機製作所は11年に米国工場での現地生産を始めた。今後はアジアでの生産も検討している。

部品の現地調達に乗り出すのは大豊工業。今仙電機製作所は11年に米国工場での現地生産を始めた。今後はアジアでの生産も検討している。

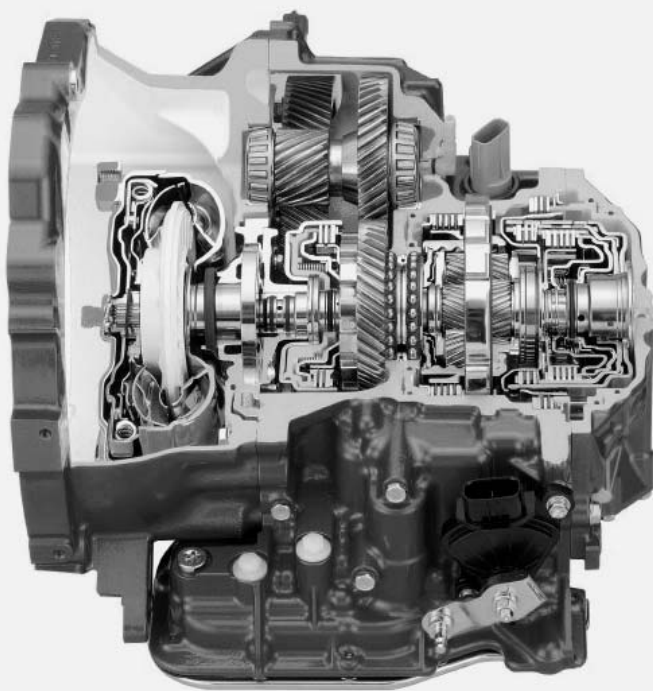


3月に稼働したインドのテクニカルセンター（デンソー）



大豊工業は中国メーカーを買収し、現地での素材生産に乗り出す

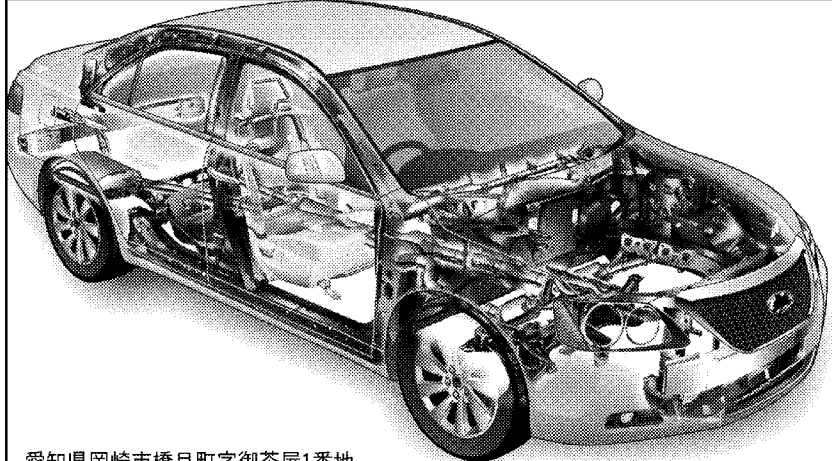
自動車部品



アイシン・エイ・ダブリュが中国で生産する前輪駆動車用4速AT（カットモデル）

1の生産は活発になってきた。植屋（名古屋市中区）はアラバマ州に同社にとって同国で3カ所目となる樹脂部品工場を建設し、13年8月に稼働する。同州周辺の部品メー

1から受注が増えており、インディアナ州とテキサス州にある既存2工場が手狭となっているため、需要地の近くに工場を新設することで、供給能力の確保に加え、輸送コストの削減を図る。



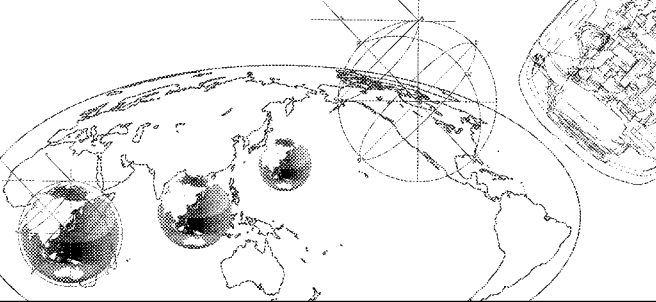
愛知県岡崎市橋目町字御茶屋1番地
TEL 0564-31-2211 URL <http://www.futabasangyo.com/>

FUTABA
FUTABA INDUSTRIAL CO.,LTD.

モノづくりで 社会に貢献する。

トライボロジーから広がる 環境対応製品

私たちの技術はあなたの見えないところで
クルマの未来を支えています。



地球規模での環境対応が求められる今、トライボロジーはさまざまな機械分野で「エネルギー損失を最小限にとどめる」ためのキーテクノロジーとして注目されています。
大豊工業では創業以来、すべり軸受の研究・開発・製造を通し、トライボロジーに深く関わり、独自の環境対応製品をお届けします。

大豊工業株式会社

〒471-8502 愛知県豊田市緑ヶ丘3-65 URL <http://www.taihonet.co.jp/>
TEL 0565-28-2225(代) FAX 0565-28-2227 銘柄コード: 6470(東証一部 名証一部)

PROFESSIONAL MATERIAL

GTTFアブリックシート

手軽で貼りやすい
粘着剤付きシート

GTTFアブリックシートの特長

- シリコンコーティングを上回る非粘着（離型）性
- 高温でも衰えにくい非粘着（離型）性
- すぐれた耐熱性・耐久性
- 安定した摩擦性能
- カット加工しやすいシート材
- シール感覚で貼れる粘着シート

立体構造ファブリック×シリコンゴム
食品衛生法：使用条件100℃を超える材料の抽出試験に合格 **特許出願中**

各種表面処理および樹脂製品・ベルト
株式会社 **吉田SKT**

本社／名古屋市西区花の木一丁目12番20号 TEL (052) 524-5211 FAX (052) 524-5287
事業所／東京・名古屋・山口 営業所／横浜・大阪・福山・広島 各地事業所・営業所にて迅速に対応させていただきます。
<http://www.y-skt.co.jp>

粘着性物質のくっつきを 防止するシール状シート材

アルミ板ではくっつきにくく粘着剤を
アルミ板

持ち上げるだけで
はがれにくく粘着剤が
残ります

CTT
アブリック
シート255

CTT
アブリック
シート255

主な用途

- 粘着テープ製造ライン
- コールドグレー・ホットメルト・各種接着剤、使用ライン
- 未加硫ゴム・生ゴム搬送ライン
- ラベル・シール類等、製造メーカー・包装ライン
- 食品類、搬送加工・焼成ライン

ステンレス製
薄肉Tig溶接

ご使用環境・用途に応じて1本から製作致します

あらゆるニーズにお応えできる
手作りのフレキメーカー！

多品種・別作・短納期

100%受注生産

中日技研工業株式会社
〒462-0064 名古屋市北区大我麻町254-1
TEL (052) 902-0505 FAX (052) 902-0546
URL: <http://www.cgk-flex.co.jp>

最新情報
製品カタログリニューアル致しました。(2012.9)
ホームページより資料請求して下さい。

ISO9001:2008認証取得 本社
登録番号: B2007Q10129R1S

ANAB
ACCREDITED

TSUBOI iron works co.,ltd.

油圧シリンダー・各種シリンダー、プースターの
開発・設計・製造 なら

**ツボイの製品は
MADE IN JAPAN**

株式会社 坪井鉄工所
〒457-0863 名古屋市南区豊3-29-5
TEL (052) 692-0141
FAX (052) 692-0157
<http://tsuboi-tekkosho.co.jp>

OKAYA & CO.,LTD.

グローバル最適調達パートナー
岡谷鋼機株式會社
本社／名古屋市中区栄2-4-18 〒460-8666
<http://www.okaya.co.jp/>